



第48号
 発行
 釧路湖陵同窓会
 くまざさ編集委員会
 発行日
 平成18年3月1日
 印刷所
 藤田印刷(株)

板、旧校舎や現
 のための掲示
 窓生の情報交換
 のあいさつ、同
 には、栗林会長
 完成したHP

れていました。
 の開設が求めら
 つとして、HP
 伝える手段の一
 タイムに情報を
 そこで、リアル
 合もあります。
 絡がつかない場
 が、なかなか連
 が流れるのです
 後同期へと連絡
 らら郵送し、その
 幹事に事務局か
 は、現状、各期

「湖陵同窓会」の公式ホームページ（以下HPと表記）がこのほど完成しました。湖陵高校で進路指導部長を務めている天内優さん（湖陵32期）が、中心となり制作しました。
 以前から同窓会の栗林延次会長は、同窓会の一層の交流を目的にHP設置への思いは強く、また、同窓会活動において

同窓会公式HPが誕生 同窓生と在校生の架け橋に

度釧路を離れてしまった同窓生が地元に戻りたいと希望すると、まず就職先が大きく立ちほだかります。そこで、地元企業とUターンを希望する同窓生の接点として掲示板が誕生しました。
 また、同窓会総会・懇親会など同窓会からの連絡事項は「くまざさ通信」として、随時情報を掲載する予定です。その

校舎の貴重な画像などがあります。その中で注目したいのは、Uターン就職支援掲示板です。大学進学などで一

ほか、本誌「くまざさ」の創刊号から最新号も天内さんがスキヤニングを行って掲載してあります。これを読むと同窓会の歴史がよくわかります。
 一方、同窓生ばかりでなく、在校生と保護者向けには、数馬田校長のあいさつ、行事予定や進路指導などの情報を掲載などに加え、災害などに備えて緊急連絡事項のページもあります。
 HPが完成したことで、「くまざさ」も現在のままの姿でよいのか、同窓生のみなさまのご意見を参考にしながら方向を決めていきたいと思えます。
 (星 匠・湖陵30期)

湖陵同窓会

北海道釧路湖陵同窓会のHPによるこそ。
 あなたは **003192** 人目のお客様です。
 閲覧者数 本日 **022**
 昨日 **058**

このHPは同窓生・現役生・保護者・新旧教職員の交流の場として同窓会より正式に許可を受け、2005年10月1日に開設、同月18日より正式運用されました。
 現緑ヶ岡校舎の写真をクリックして下さい。

昨年10月に開設した湖陵同窓会のHPトップページ

湖陵同窓会HP
<http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/>

目次

「誠愛勇から」湖陵7期生 …… 2.3頁
 同期生3人で行く中国西域 …… 4.5頁
 総会・懇談会だより …… 6頁

青春譜・湖陵ヶ丘 …… 7頁
 事務局だより・編集後記 …… 8頁

誠愛勇から

湖陵7期生の巻

不努力を言わず
平力が倍働け
他者の倍働け

牧野包敏校長、卒業アルバムから

(釧路公立大学名誉教授)

栗山久策

春新書、2005年)時代に、戦後を語ることでできる数少ない世代です。

私の手許に縁が摩り切れ色褪せた写真帳がある。中表紙のタイトルは「北海道釧路湖陵高等学校第7回卒業記念写真帖 昭和30年3月」。ページを開くと、古惚けた白黒の写真にも拘らず、394人の紅顔の美少年と緑髪的美少女のポートレートが鮮やかな色彩を輝やかせ、活力を漲らせて眼前に迫ってきます。

ところが残念ながら私の写真はその中にありません。というのは私は昭和30年3月には卒業していませんからです。それなのにどうしてこの写真帳が手に入ったのかいまでも分りません。そんな「もぐり」の私が「くまざさ」に、湖陵7期生の巻「書くのは、いかにも場違いで烏滸がましい。それを敢えて語ることにしたのは、編集者の指名と「同期」生の暖かい理解があったからです。

7期生の青少年期は、第2次世界大戦と敗戦による混乱・荒唐の中にありました。「誰も「戦後」を覚えていない」(鴨下信一、文

昭和28年2月28日、湖陵高校は体育館と武道館を残して焼失しました。その年の4月に私は転校してきたのです。それからの2年間は、江南高校、学芸大学、東中学校と間借りの学校生活が続く。特に東中には一番長く仮住まいをしたと思いますが、遠距離と不便な施設をものともせず、私たちは勉学にクラブ活動に励んだのです。

この混沌とした不自由な学生生活が、かえってわれわれを逞ましく成長させ、友情の絆を強めてくれたに違いない。7期生の結束の堅さは鰐淵俊之釧路市長の誕生に遺憾なく力を発揮することになりました。

鰐淵俊之君(日組)は北大の獣医学部を出て釧路市役所に勤めていましたが、誰も市長選挙に出るなどと思っていませんでした。その彼が40歳の若さで立候補し、第18代釧路市長の座に就いたのは

昭和52年です。この時の同期生の協心戮力は見事でした。久本甫(日組、歯科医)、浅川了一(日組、浅川商会)、原藤戸(A組、旭食堂)、清水美喜雄(B組、インテリアSIP)、稲津順一(日組、市役所)を核に手を携えた7期の面々は寝食を忘れて奮闘した。この背後の力が市長としての鰐淵の力になりました。そして彼は5期19年市長として手腕を揮い、釧路市を近代都市に変貌させたのです。その鰐淵君は平成17年3月28日卒然として世を去りました。7期生は愕然として色を失ったと言ってよいでしょう。彼は同期の星であり、誇りでもあったのです。

いくらか学習環境は整いつつあったとは言え、物資の不足と食糧事情の悪さがまだ残っていた昭和20年代の後半、若者に情熱の発露とエネルギー放出の機会を与えてくれたのが高校野球。釧路の早慶戦と言われた湖陵対江南戦はわたしたちの血を湧かせてくれました。当時の湖陵は強かった。昭和28年、29年と全道大会に進出し、いずれも準々決勝まで進み、甲子園へいま一步のところまでいったのですから。投手の山澤亮(日組、札幌市)、捕手の森岡義雄(C組、故人)、ファーストの岡本二三男(D組、小樽市)、セカンドの今泉克朗(日組、釧路市)、ショートの中川久(日組、白糠町)、センターの遠藤義夫(C組、札幌市)などなど、同期の面々の活躍は今も目に強く焼きついています。



振り返って観ると、7期生は実に多士済済。思い出すままクラス毎に見てみましょう。

女性ばかりのA組では、先述の原藤戸さん(旧姓小野加要子)は御主人と旭食堂を経営しながら同期会のため役をつとめ、相変らず元氣溼刺。同期会に

は滅多に顔を出さないけれど、当時のF組の担任だった斎藤純興先生の奥さまとして今はさいたま市におられる斎藤正子さん(旧姓和田)。

B組では、現7期会長の清水美喜雄君はインテリア、浅川了一君はケンタッキーフライドチキン、五味拓二君はホテル五味をそれぞれ中心に齢を跳ね飛ばしてビジネスを続けている。そして今は札幌の中央バスで広報を担当している石井利幸君(小樽市)は、現役時代は北海新聞記者として腕を振りました。

C組となると、北大そして北海道の生活協同組合の活動に従事し、日本生活協同組合連合会を経て、全国消費者団体連絡協議会の事務局長を務めた太田吉泰君(所沢市)。様々な事業に手を染めながら放胆に生きてきた窪田幸三君は、釧路市活性化の一役を買おうと、都心部に立体駐車場バスターパークを建設しました。また浜隆司君は釧路市漁業協同組合代表理事組合長として地元漁業界のまとめ役を果しながら、北海道漁業信用基金協会理事長、日本漁業信用基金中央会副理事長を務めるなど、現に日本漁業界の重鎮です。

D組では高校退職後今もって文芸に情熱を燃やす平山耕佑君(札幌市)は、舞台の人であった仙北



屋克己君（静岡市）を主演に「己然」を平成17年4月釧路市文化会館で上演し好評でした。

E組の加藤義明君は長年に渡って弁護士として釧路市の法曹界で活躍した。また中島照子さん（旧姓井原）は、娘の彰子さんを立派なおペラ歌手として育て上げ、今は群馬県板倉町で暮らしておられます。

F組を見ると、登別市の透禪寺の住職で教育委員長でもあった峰田弘道君は、飄逸な和尚として人気があったが、平成17年6月に黄泉に先立った。一方、酒田幸子さん（旧姓高垣、札幌市）は宮城社・〈箏の会〉を主宰し、琴を教えると同時に、北方音楽交流―MUSIC A 織音を組織し、民族音楽を通してロシア、中国、フィリピンと交流を深めるなど国際的に活動しています。

これもまた女性ばかりのG組には、西潟弘子さん（旧姓木下）がいる。短歌の世界で名を成した彼女は、このところ体調がよくないようですが、恢復してさらに筆を執ることを祈るしかありません。

H組には稲津順一君がいます。酒は減法強いが口数の少ない彼は、黙々と仕事に精励して市の収入役まで登りつめ、退職後は7期会の取りまとめを肅々とこなしている。同期会の会長と同窓会長を

長く務めた久本甫君は歯科医院を閉じ、散歩と音楽に悠々自適。また釧路商工会議所の専務理事の職にあつて釧路市経済界の発展に力を尽した木村勲君は、現在は商工信組の非常勤監査役をしています。ここで忘れられないのは宮城宏吉君。釧路工業高校の教諭でアイソホッケー部の監督を勤め、昭和58、60、62、64年と4回も工業高校を全国優勝に導きました。昨年の10月に行われた卒業50周年第七期生古希記念東北旅行（参加者51名）を成功させたのも彼の努力があつてのこと。

こうして見ると、かつての眉目秀麗な少年が頭髮の白さを託ち、明眸皓齒の少女が肌の弛みを憂え、霞目を老眼鏡で補うことはあつても、未だ意気軒昂な7期生の像が浮び上がってきます。青春時代に培ったしなやかな精神が残余の人生を充実させてくれるでしょう。

ここで私たちの良き師であつた担任の先生方の消息を分る範囲で記しておきます。窪田清彦先生（A組、世界史、故人）、井上幸夫先生（B組、英語、札幌市）、大矢二郎先生（C組、数学、故人）、神林宗三先生（D組、簿記、千葉市）、山根富雄先生（E組、体育、千葉市）、斎藤純興先生（F組、国語、さいたま市）、安本満寿夫

先生（G組、体育、故人）、鎌田登美夫先生（H組、物理、札幌市）となっています。亡くなられた先生方の冥福を祈るとともに、存生しておられる先生方の健康と長寿を願うこと切なるものがあります。

この辺で「もぐり」の語りを終えましょう。独断に満ち配慮に欠けたペンの走りをどうぞ許して下さい。「もぐり」とは所詮「ある集団の一員とは認めにくい」（広辞苑）存在です。それを承知の上で、7期生の理解と友情を当てにしてこれを書きました。言責はすべて小生にあります。末尾に「もぐり」の正体を明らかにして、湖陵7期生の巻を閉じたいと思います。

「7期」の皆さんより一年先に帯広柏葉高校に入学し、釧路湖陵高校へ転校して2年遅れで卒業した半端者を、「同期」の一員として遇して下さい。友情に、この機会を借りて心から感謝します。さもなくば根無し草に終始したかもしれない小生の生活を、釧路の地にしっかりと据えてくれたのは「同期」の繋りでした。ここぞ「終生の住処」という自覚がもてたのも「7期生」の結びつきがあったからです（卒業30周年を記念して昭和60年に刊行した「湖陵が丘に風ありて」の「編集後記」から）。

の砂漠」を を30日間で

森脇弘之(湖陵13期)の 青春散歩



澤田 関口 森脇

還暦を過ぎ自由になつて

50代を越えた頃から、酒の席などで誰からともなく「シルクロード」がよく話題にあがるようになりました。そのうち計画というか夢とか構想がだんだん大きくなって旧ローマ帝国のイスタンブールまで車で走破しようという冒険的な旅行の計画を練りました。

お互に職業を持っているうちは不可能に近く諦めるしかありません。みんな還暦を過ぎ職場から開放され自由な時間を得られ、若き?日のみた夢を實踐しようとする体的な計画を考え、情報を集めて検討した結果、車では余りにリスクが大きく危険で、西安から西へ、

中国及び新疆ウイグル自治区タクラマン砂漠を一周、つまり天山南路の西域北道、西域南道を私の同期澤田征矢、関口忠昭と3人で平成16年春迎ることにした。
3月29日(月) 釧路空港発 成田空港着



足に見えるトイレなど

旅はトラブルがつきもの。乗り物のチケットを購入するのに時差と言葉で大苦労。こんなに体力と時間を浪費するとは。

地図を広げて道を探ねると十数人の人ばかり、それでも目的は果せない。途中でバスを降ろされる。乗客はみな文句を言わぬ。トラブルかと思いついていくとベッドのたくさんある簡易宿泊施設。急ぐ私達は至上手段を使うも漢の政府にはばまれる。止むなく他のホテルへ。天井の高い殺風景な部屋、トイレの水は出ずバスタブに湯わかし器が先に入っていた。釧路から西安まで往復15万円、他の交通、宿泊、飲食、観光費は10万円くらい。飲物40、50円。食事1回3人で4、500円、ホテルが三ツ星以上で1、2000円。

こうした物価の安さは良い。だが、旅は異国の習慣・伝統との違和感に悩まされる。ハワイのトイレも足に見える板張り。中国もそうでホテルは水洗だが幅30セ



ンチの溝に同方向をむいて股がるだけ。(昔の造材飯場でよくあった)丸見えの団体トイレだ。馴れなければ今の日本人には便も出ない。それが1回5円位とられる。用が済めば係員がバケツに汲んだ水で高い所から流すので。タクラマカン砂漠では砂が水の代りとなる。女性も大きなスカートを広げて平気で用を足す。生理的な現象は馴れるまで勇気のいることを覚悟して旅するべきである。

澤田征也ら同期3人が 男だけ辿った「月 シルクロード54



シルクロード5000^キを30日間かけた旅は「死んでもいい」と決意して出た旅。人生の中で、大きな財産になった。

目的は中国西北部、天山山脈、タクラマカン砂漠が広がるウイグル自治区。

最初に訪れたのは、美女のミイラで有名なローラン。ここからクチャに一泊し、古代の壁画や石窟のあるキジル千仏洞。

アフガニスタンと国境を接するカジュガルでは、標高3600^リのカラクリ湖。

体力がなければダメ

30日(火) 成田(10:50)→北京→西安(18:00)

31日(水) 兵馬俑・秦始皇帝陵・華清池(今夜発、ウルムチ行き火車) 列車の票入手できず

明日発票入手、ナンガ^リ軟臥^リ(グリーン寝台) ラッキー

4月1日(木) シルクロード東の出发点・西安市内散策

西安→夜いよいよウルムチへ出発

2日(金) 1日中車窓 広いひろい

3日(土) ウルムチ(16:45着) 1時間遅れ

4日(日) 日曜なのにクチャ行きの票入手ラッキー

南山観光(天地・南山牧場・1号水河等) (やっと冷たいビールに会おう)

5日(月) 新疆ウイグル自治区博物館(4000年前の美人ミイラに

感激) ウルムチ→クチャ (二階建て列車、ナンガゲット)

6日(火) クチャ着(6:14) 1時間遅れ

キジル千仏洞・クズルガハ烽火台

7日(水) クチャ→カシユガル(票の入手に苦労)(11:30 1時間20分遅れ)(9時間の列車の旅)

硬座(普通座席) から車内で軟座(グリーン車)へ移動

8日(木) 1日中市街を散策

9日(金) 行きました、カラ庫里湖(カラクリ湖) 海拔3600^m

10日(土) 明日のバザールを見るための下見

乗合バスで市内観光・夜は美女達のウイグルダンス

11日(日) 世界一のバザール、人ひと人、その中を車、ロバ車、オートバイ……

秘境を旅する自由気儘な旅。宿もガイドもバスも車も自分で手配した。

カシユガルからの帰路は、ヤルカンド、ホータン、チャルチャン、コルラ、トルファン、と三蔵法師がたどったとされるシルクロードを巡り、見渡す限りの砂漠に点在するイスラム寺院や古城、関所跡を見学。敦煌では月夜のラクダ乗りにも挑戦した。

毎日重いリュックを背負つての旅は「体力がないとできない」

(関口忠昭)

カシユガル(11:00)→ヤルカンド(14:30(30分早い)) ここからは、西安までバスの旅

12日(月) ヤルカンド(9:30)→和田(ホータン)

13日(火) 古城・ホータン川・その他見学

14日(水) 和田(ホータン)(11:00)→チャルチャン

なぜか于田でおろされる。今日はここに泊まりらしい、いままです最低のホテル、水が出ない

15日(木) 朝、全ての水が止まっていた

于田(9:40)→チャルチャン(20:00)、朝まで暗い5時半から待たされてバスはオンボロ 道は凸凹

16日(金) チャルチャン(10:30)→チャルクリク(20:30)

豪華バスの下段 ラッキー

三日がかりでようやく着いた、広大な砂漠の景色が救い

17日(土) ミーラン(2800元、高い) 砂漠を突っ走り2時間、ローラン古城が出現(写真は厳禁)

18日(日) チャルクリク(10:00)→コルラ(16:30) 鉄門関見学、博物館は時間的に無理

19日(月) コルラ(10:00)→トルファン

20日(火) ベゼクリク千仏洞・火焰山・孫悟空・高昌古城・カレース博物館

トルファン(22:01)→敦煌(8:30) 久しぶりの火車、コウガ(普通寝台) 初めての空席の多い列車、快適

21日(水) ホテルは、敦煌山荘。鳴砂山に近く、新しい中国風の素晴らしい建物、しかも安い400元。また来たい

鳴砂山。月の砂漠をラクダに乗って。(共が野郎じゃ)



22日(木) 莫高窟・故城(日本が復元)・陽関(烽火台跡がひとつ)

23日(金) 敦煌(7:50)→張液 砂嵐の中を突っ走る、世界的に有名な砂塵と風の街

24日(土) 張液(9:30)→蘭州(17:30) 黄河を歩き、黄河を渡る。屋台船で快食、ビザの期限が心配になる

25日(日) 蘭州(7:00)→西安 夕方予定通りに到着

26日(月) 飛行機の手配も終わり一安心。あと一週間ほしかつた。西安の城壁外側を歩く・個人個人自由行動

27日(火) 華山登山、東峰を征服。最高

シルクロードも今夜で終わり。無事を祝って最後の晩餐、ホテルは最高級、新築の豪華ホテルだ。

28日(水) 西安→北京→成田

ビザ期限30日を、有効に使う

29日(木) 成田→釧路

着後の蕎麦が美味かった

平成17年度総会・懇談会だより

釧中・釧路湖陵高校同窓会（栗林延次会長・湖陵17期）の総会と懇親会が、さる8月13日に釧路キャッスルホテルで開かれ、東京、札幌、帯広支部も含めて同窓生約400人が出席しました。

総会では、校歌斉唱、物故者への黙禱が捧げられたあと、栗林会長があいさつ、続いて初めて湖陵出身、数馬田敏校長（17期）、地元を代表して伊東良孝釧路市長が祝辞を述べました。ゴルフコンペの益金の寄付も行われました。

懇親会は、東京支部の板本登さん（湖陵16期）の乾杯で始まりました。現役の合唱部や吹奏楽部もそれぞれステージで演奏を披露し、先輩たちから大きな拍手を浴びていました。来年の当番期は24、34、44期です。



青春譜・湖陵ヶ丘

校歌・寮歌は作詞 菅原覚也先生

・校歌・寮歌・チアリーダー

あの石川啄木、宮澤賢治ら出身校盛岡中学（現盛岡一高）さえが軍艦マーチと同じ曲の校歌である。

それにひきかえ釧中・湖陵高は至高の名曲「海ゆかば」を生む信時潔氏につてをたより作曲して戴いた。作詞は国漢教諭だった菅原覚也先生のが決まったのである。

「これは私が作ったというよりも、雄大な郷土の景観と夢多き若人のいのちの中から生まれるべくして生まれた詩である」と菅原先生が遺稿で述べていられる。

それ故に、全卒業生が、在校生が愛し「日本一の校歌」と威張るのである。

平成元年に釧中13期同期会で、「釧中寮歌」の作詞作曲について、作詞は菅原先生、曲は鶴見専一先生？と論議がわいた。

多趣味多芸の鶴見先生が作曲説を生んだわけだが在寮経験者などは責任さえ感じながら疑問に巻き込まれる。

寮歌の曲については、仙台高等工業学校の寮歌から、とは落ち着

いたのだが、伝説が憶測を生み、平成元年早々に菅原先生の嫡子式也住職さえ巻き込んで大騒ぎした。

・橋南北対抗戦から応援歌生まれる

大正4年6月に始まった釧中運動会は当時の釧路町民にとつて楽しい年中行事で町民こぞつて集まった。1学年1学級50名、5年生まで全校生徒でも2百数十名。

この校内運動会の橋北、橋南、寮と三つに分かれて競った1600リレーで橋南チームが、応援歌ナンバーワン、湖陵に長しを6期生が応援のために作った。

その後、増えてくるが、作詞作曲とも不詳のまま古き良き時代が流れ去った。曲が他校からの替歌なものもある。ただ甲子園で歌われる曲に同じものがないのは幸い。

青春を謳歌した全ての歌が、老いても尚、愛唱されることが作者の満足であろう。戦後も伊藤淳一牧師夫人に作曲して戴いたのがある。

いまはチアリーダーの女子生徒

の方がもて、パンカラの応援団長は昔ほどでもない。
なにしろ自作自演の明るくて、華やか。若い女子生徒の青春がほとばしっている。応援される選手

も見守る観客にとつても血わき肉おどらざるを得ない。
時の流れは美しく活発になった。

奥田達也（湖陵1期）



在校生のチアリーダー

刊行案内



志摩 馨

本名は大谷悟

1948年釧路市生まれ

湖陵18期、札幌在住

連絡先

☎011-897-2649

小説『白き頂の Rond』

（文芸社2005年3月発行、全369頁、定価1,700円税別）



事務局だより

学校の電話保留音が校歌に

釧路湖陵高校に電話をかける
校歌が流れる!!

総会前に必ず歌うのが校歌です。同窓生と一緒に口ずさむと、気分は高校時代に戻り、脳裏には厳しく、楽しい思い出がよみがえり、身も心も引き締まる思いです。

さて、校歌の由来については、7ページで若干触れられています。湖陵高校の校歌は、釧中時代から変わっていません。ほかの、例えば、釧路江南高校も変わっていて、道内でも開校からずっと変わっていないのは、珍しいとのこと。同窓生には、校歌への思い入れが深い方がたくさんいます。その中の1人が、現校長の教馬田敏さん（湖陵17期）です。昨年4月の入学式の際、校歌を久しぶりに聞いて、大きな感動に包まれました。

その校歌をもっと聞くことができるのでしようか？ ホームページでは聞くことができます。そして、今年に入ってから、湖陵高校の電話

保留音に校歌が流れることになりました。

釧路市内では、中高一貫教育をめざす、武修館中学校、高校（旧釧路短期大学附属高校、緑ヶ岡高校）の電話保留音で校歌を採用しています。道内の公立高校ではまだないそうです。

「くまざさ」の取材をした時点では、校歌を合唱にするのか、吹奏楽によるメロディーのみになるのか、打ち合わせ中でしたが、本号が発行された3月1日にはそれも決まり、「もしもし湖陵高校ですか。〇〇先生お願いします」と電話し、「少々お待ちください」と事務職員のみなさんが電話の保留ボタンを押すと校歌が流れているはず。今後同窓会では、電話保留音など、湖陵高校からのいろいろなアイデア、要望について検討していきたいと思っています。

（星 匠・30期）



電話保留音で校歌が流れます
—写真は教馬田校長—

北海道釧路湖陵高等学校校歌

作詞 菅原 寛也
作曲 信時 潔

一、日出づる國の北陸に
神秘を削る丈夫の
関十一州に反響して
曙光あまねし蝦夷ヶ原
瞻よ東方の釧路岬
湖陵に立てる我が学舎

二、向学の心自治の魂
久遠の使命胸に秘め
鈴蘭薫る春採の
丘に微笑む若人が
誠を雪に類えつつ
理想は高し阿寒山

三、学の苑に旦暮の
師恩を讃う三星霜
愛ゆかしき兄弟よ
吹雪く旷野も荒海も
訓の道を守りつつ
共に進まん勇ましく

編集後記

昨年11月アフリカのウガンダで開催されたラムサール条約締結国会議で日本は国内20カ所を追加登録し釧路・根室管内では、これで6カ所となり世界的な湿地・湖沼群として注目されよう。昭和55年に釧路湿原が国内初登録され、今回新たに阿寒湖、野付半島・野付湾、風蓮湖・春国岱などが加わった。特に探鳥の盛んな英国人旅行者の訪問に備え地元では英字パンフや日英併記案内板や通訳ガイド人の養成など、その準備に追われそう。これで昨年10月に誕生した新・釧路市は2つの国立公園（阿寒、釧路湿原）、2つの特別天然記念物（タンチョウ、マリモ）に加え2つのラムサール登録地（釧



前列左から奥田達也・星 匠・上岡信明、後列左から増子正樹・田巻恒利

路湿原、阿寒湖）を持つこととなり自然豊かな国際観光都市としての魅力と価値が増した。
（田巻恒利）



釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL (0154) 43-3131

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次（湖陵17期）
- 同窓会幹事長 島本幸一（湖陵19期）
- 同窓会会計長 佐藤文昭（湖陵22期）
- 編集委員長 星 匠（湖陵30期）
- 編集委員 渋谷倫之（湖陵26期）
- 編集委員 増子正樹（湖陵20期）
- 編集顧問 上岡信明（釧中30期）
- 編集顧問 奥田達也（湖陵1期）
- 編集事務局長 田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
TEL 0154 (23) 0241
手動切替FAX 0154 (23) 0242